

筑波大学環境サークル エコレンジャー

筑波大学環境サークルエコレンジャー代表
高野舞香（芸術専門学群 3年）

つくば大学環境サークルエコレンジャーとは？

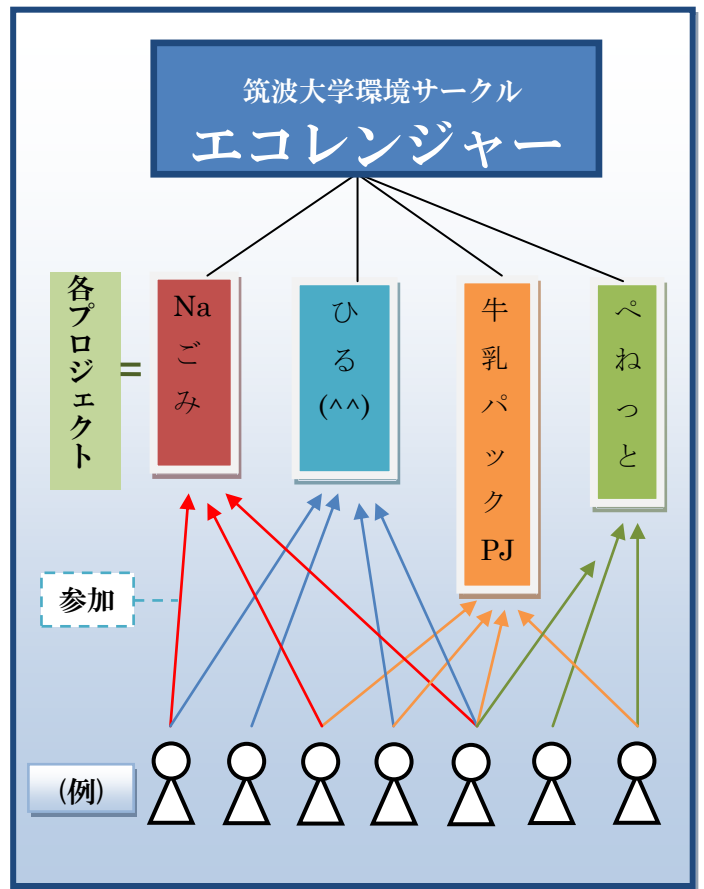
筑波大学環境サークルエコレンジャーとは、環境問題に興味をもち、何らかのアクションを起こしたいと考えている学生が集まって様々な環境活動を行っている筑波大学公認の環境サークルである。

設立は1997年、生物資源学類の学生の中で環境問題に取り組みたいという動きから発足した。現在エコレンジャーは3年生4名と1年生7名の計11名のメンバーで活動している。「Sava the earth」のコンセプトのもと、和気あいあいとした雰囲気の中でそれぞれ様々な活動に取り組んでいる。

エコレンジャーの活動の特徴はプロジェクト制を取っているところにあり、複数の企画を平行して進めている。興味があるプロジェクトには制限なく参加でき、また、自分のやりたいことがあれば新しいプロジェクトを立ち上げることが出来る。すなわち、個人の考えが積極的に反映できるシステムとなっている。現在は、「Na ごみプロジェクト」、「ひる(∇^)プロジェクト」、「ぺねっとプロジェクト」「牛乳パックPJ」の4つのプロジェクトを発動している。

また、プロジェクトを円滑に進めるために、エコレンジャーではミーティングの場を設けている。全体ミーティングは、毎週1回、プロジェクトの協議や報告、他団体イベントの情報共有の場として開いている。一方、プロジェクトごとに方針や計画などを話し合う、個別ミーティングの場も設けている。

今後も、話し合いの場と実践の場を重ねていくことで、気持ちの良い環境づくりを目指し、地球にも優しく自分たちも気持ちの良い活動を展開していきたい。



Naごみプロジェクト

歴史

環境 NGO「A SEED JAPAN」が行っている『ごみゼロナビゲーション活動』をつくばでもできないものかという考えから始まったプロジェクトである。Naごみの「Na」とは、navigationの頭文字から取っており、また、お祭りが、来場者や主催者やエコレンジャー全員の「和み」の場になるように、という思いも込められている。

活動内容

地域のお祭りやイベントにおいて、ごみ分別ステーションを設置し、来場者のゴミの分別のナビゲートを行う。分別を代わりに行ってあげるのではなく、あくまでもナビゲーションという、サポートの位置に徹する。また、分別ナビゲーションだけでなく、啓発活動として、様々なアクションを起こしているのもこのプロジェクトの特徴である。

主な参加イベント

- ・吾妻まつり（7月中旬）
地元で開催される、地域密着型のお祭りである。小学生や保護者の方の来場者が多く、各家庭におけるごみの分別の意識向上にもつながっている。
- また、当サークル新入部員にとって Na ごみ初参加のイベントでもあり、環境への意識が高まる貴重なお祭りでもある。
- ・まつりつくば（8月下旬）
2日間で40万人の来場者が来るというつくば市最大のイベントである。大勢のつくば市民に直接働きかけられるという点で、エコ意識の啓発の周知度を上げる最も良いチャンスでもある。

成果

毎年、ゴミ分別に対して意識の高い来場者が増えてきている。また、毎年約17%のリサイクル率を達成している。

今後の展望

このプロジェクトの最終目標は、エコレンジャーの手を介さずに、きちんと分別されるようになることである。そのためにも、毎年継続して活動していくことで、より多くの来場者へ、環境への意識を呼びかけていきたい。

ひる(∇^)プロジェクト

歴史

ひる(∇^)は、ひるがおプロジェクトと読み、この活動はミーティングばかりではなく実際に行動しようという考えのもと生まれたプロジェクトである。ゴミ拾いを活動の中心にした理由は、何かしたいという単純なものだったが、ひる(∇^)は現在も続いている伝統的なプロジェクトだ。



活動内容

毎週1回大学周辺のゴミ拾いをするという清々しいプロジェクトであり、主に大学周辺を隔週交互に実施している。

長所

ひる(∇^)プロジェクトに参加することによって大学周辺が綺麗にすることができるのも嬉しいが、それ以上に参加メンバーと会話しながら活動することで互いの親交が深まる場となっている。また、参加強制はなく自分が参加したい時に参加できてスケジュール的に拘束されることがなく気軽に活動できるプロジェクトであるといえる。活動時間も1時間と長すぎず短くない。

成果

ゴミ集積所付近の散乱した状態の改善、大学付近の景観維持、等が挙げられる。小さな活動かもしれないが毎回数袋分のゴミを拾うことができている。また、他団体からの参加もあり、人と人との交流の場にもなっている。

今後の展望

継続していく。他団体との交流の場としての確立を目指す。

ぺねっとプロジェクト

歴史

「ぺねっと」は「penetrate=思想などが人の心に浸透する」からきている。以下の目標を掲げ、宿舍でのごみ捨てをサポートすることで清潔な集積所を目指している。

- ①行動につながるような意識改革
「ぺねっと info」という広報紙の掲示で情報発信
ごみの分別を少しサポート。

- ②行動につながる環境づくり
集積所の改修案
捨てやすく、回収しやすい集積所を目指す。

牛乳パックPJ

歴史

「牛乳パックPJ」とはその名の通り我らエコレンジャーが牛乳パックを回収して、限りある資源をリサイクルしていこう！といったPJである。筑波大学各学生宿舎は牛乳パック回収を行っているスーパーから遠く、そのまま燃えるゴミとして捨ててしまう学生が多かった。そこで、身近なところに回収BOXを置き、貴重な資源の再資源化を促進しようということから発足した。

活動内容

毎月1回定期的に、一の矢、平砂、追越の3か所の学生宿舎共用棟に設置している牛乳パック回収ボックスに集められた牛乳パックを、回収用のカゴに詰め替える作業を行っている。回収用のカゴに入れられた牛乳パックは、その後回収業者に製紙場までの運搬を依頼している。

牛乳パックの行方

牛乳パックは製紙場で回収されて再生紙メーカーへ行き、主にトイレットペーパーやティッシュペーパーなど家庭紙製品に再生される。

牛乳パックPJは、誰にでもできるまさに「身近なエコ活動」である。今後はさらなる回収率の上昇や、回収ボックスの環境改善を目指して、取り組んでいきたい。